

短歌をやめた日

石井僚一

恋人がいるのに東京の歌会で会った人に誘われるがまま家に泊まりにいった日
別れを告げられて狂ったように泣いている恋人を北海道において東京に行く日

*

あなたに賭ける、と言われて、この人に短歌のすべてを賭けよう、と思った東京の日
仕事も短歌もやめてこの人とずっといっしょにいたいな、とってしまった東京の日

*

たばこをやめたはずなのにぼくにかくれてたばこを吸っているのをみてしまった日
機嫌がわるいときのあなたといるのは耐えられない、と電話の向こう側から言われた日
会いにいつでもいいですか、と連絡すれば間をおいて、だめ、と言われてしまうだけの日

別れよう、と連絡すれば間もなく、それがいい、と言われてしまう日

*

一睡もできないまま仕事に向かう夏の暑い日

*

電話をすれど電話をすれどつながらない日 あなたは短歌をつくっていました
手紙をおくっても返事がこない日 あなたは短歌をつくっていました
音楽を聴きながら走る以外でできないことがない日 あなたは短歌をつくっていました

*

こんな歌つくらないほうがいい、と言われて歌会に行くのをやめた日
ツイッターで言い合いをしている短歌のひとたちをみて嫌なきもちになった日

*

疲れはてて書くことが何も思いつかない夜に、やめるんだ、と声が出てしまった日
もったいない以外につづける理由がなくて、やめる理由はたくさん思いうかぶ日

*

話しかければ、被害者にも加害者にもなりたくない、と返された日
がんばれ、じゃなくて、がんばったね、と言ってほしかったあの日

*

なんだか嫌なきもちの日

*

会えば殴るか刺すか首を絞めるかしてしまうと思って二度と会わないために短歌をやめた日